議長
加藤

令和２年１月２１日

川西町議会議長　加　藤　俊　一　　殿

川西町議会産業厚生常任委員会
委員長　神　村　建　二

閉会中の所管事務調査先進地視察調査報告について

令和元年第３回川西町議会定例会において許可された所管事務調査（先進地視察調査）について、別紙のとおり報告します。

産業厚生常任委員会先進地視察報告書

１．視察期日：令和元年11月７日（木）～8日（金）

２．視察地：埼玉県飯能市役所　/　埼玉県吉見町「道の駅いちごの里よしみ」

３．視察目的：鳥獣有害対策及び産業振興の先進地視察

４．参加者：委員長　神村　建二、　副委員長　島貫　偕

委員　髙橋　輝行、委員　伊藤　寿郎、委員　吉村　徹、委員　渡部　秀一

委員　井上　晃一

研修参加　農地林務課長　阪野　正則

５．視察地１：飯能市（人口７９,６４７人：平成31年３月１日現在）

①視察地での対応者　市議会副議長　栗原義幸

議会事務局　議会総務課長　大野裕司、　同課庶務担当　廣江暁、

産業環境部長　青田精一、同部農業振興課　鳥獣被害対策室　室長

森田高広、同室主幹　宮寺裕章

日時：令和元年11月７日（木）13:00~15:00

６．視察内容

①鳥獣被害対策の取組みについて

(1) 体制について：市の職員が主体的に取り組んでいる

①農業振興課鳥獣被害対策室（正規職員２名、非常勤職員１名）

②鳥獣被害対策実施隊（正規職員２名、特別非常勤職員２名）有害鳥獣の捕獲活動

③鳥獣被害対策普及員（3名）サル追い払いに係る地域支援、電気柵等の普及活動

④鳥獣被害対策隊（79名）　市長から任命されたプロジェクトチーム

(2)予算について

令和元年度　１７，２８０千円

(3)市独自の取り組み方法

①飯能市鳥獣被害対策隊の活動

鳥獣被害対策に職員が一丸となって臨み、本来業務に携わりながら被害現場の情報の収集や共有、対策のための助言や提案、研修会や懇談会の開催に取り組み、「地域ぐるみの鳥獣被害に強い地域づくり」を目指して活動を続けている。

②IoT技術の導入

IoT技術の一つであるLPWA通信網を鳥獣被害対策活用する実証実験として始めた。LPWA通

信網は、基地局と呼ばれるアンテナ、デバイスと呼ばれる送（発）信機、民間事業者が運用する各種サーバーによって構成されている。有害鳥獣がわなにかかるとその情報がデバイスから送信され、パソコンで確認できる。対策隊員が毎日の見回りに出向く必要がなくなり、隊員の負担軽減につながっている。

(4)その他独自の取り組み

①有害鳥獣捕獲業務委託（猟友会及びシルバー人材センター）

②電気柵等の設置費用補助（費用の二分の一位内で上限３万円以内）

③埼玉県実施計画に基づくアライグマ捕獲従事者養成研修会の開催

④サル対策等地域住民の自主的な活動に対する支援

７．総括

飯能市の有害鳥獣対策は、埼玉県と連携した取り組みとして行われ、鳥獣被害に強い地域づくりを目指し、①野生鳥獣を寄せ付けない。②被害を防ぐ防除。③個体数を減少させる目標を掲げて取り組んでいる。環境整備にも力を入れ、①耕作地周辺の整備（ヤブ、草むらなどの除去)。②放任果樹（柿や柚子など）の伐採。③収穫残渣や廃棄作物の除去。④鳥獣被害対策普及員や出前講座での啓発活動などを、地域ぐるみで行っていることに大きな特徴があった。

８．視察地２；埼玉県吉見町（人口１８，９５０人）「道の駅いちごの里よしみ」

①視察地での対応者　吉見町長　宮崎義雄、　議会議長　宮崎雄一、

地域振興課長　小川輝由、同課係長　宮崎敦、議会事務局長

長田茂雄

日時：令和元年 11 月 8 日（金）10:30~12:00

９．視察内容

①道の駅立ち上げまでの経緯

第３次吉見町総合振興計画（平成８年度～12 年度）で「道の駅整備の促進」が計画された。

第４次吉見町総合振興計画（平成 13 年度～17 年度）で「道の駅の整備」の計画がされた。

平成 17 年　道の駅オープン

②事業内容

総事業費 10 億 5500 万円

・経営構造対策特別事業２億 8400 万円（補助率：国 1/2　町 1/2)

・町づくり総合支援事業 7 億 7000 万円（補助率：国 1/3　町 2/3）

・従業員数

支配人：1 名、副支配人：1 名、社員 4 名（うち料理担当長 1 名）、パート・アルバイト 21 名

敷地面積：25,000 ㎡

③来場者数、および収支状況

来場者：平成 30 年度 1,135,869 人　収支状況：平成 30 年度利益 666,142 円

毎年利益を出しており指定管理料は支払っていない。

１０．総括

道の駅「いちごの里よしみ」は、埼玉県で 1 位の生産量を誇るいちごを産業振興の要として町おこしにつなげている。いちごの里は、首都圏からの来訪者へ田舎体験を提供することにより、町の魅力発信と交流による地域活力向上、および定住化促進につなげている。また、加工品開発や特産品のブランド化にも力を入れて産業振興の相乗効果を図っていることが印象に残った。